

「名所江戸百景」と「浪花百景」

―作品目録と順番に関して

小山 周子

本調査報告書は、比較都市研究「江戸と大坂」の成果の一つとして刊行を行う。東京都江戸東京博物館所蔵の「名所江戸百景」と大阪歴史博物館所蔵「浪花百景」の全図を掲載し、江戸時代末期の両都市の繁栄を描いた名所絵シリーズを比較・検討するための資料として、それぞれの制作に大きな影響を与えた江戸の『江戸名所図会』『絵本江戸土産』、大坂の『摂津名所図会』『浪花の賑ひ』を該当する箇所について掲載する。これらの取捨選択には、より一層の慎重さは求められるかもしれないが、これまで一覧できる刊行物はなかったことから、今後の都市研究ならびに文化史、浮世絵研究等に資することを目的に編集を行った。また、史料の掲載に関しては掲載量の都合により範囲に限りがあり、そのなかでもできる限りの翻刻と平易な表記を努めた。

すでに安政期の「名所江戸百景」とその数年後から刊行が始まったと考えられる「浪花百景」に関しては、図様の影響に関する指摘がある。「浪花百景」の作画における広重の綿密な学習があったこととの検証も行われている。本稿では、掲載作品・史料の概要を記載するとともに、江戸と大坂の「百景」を扱うにあたり両シリーズの目録と順序について記し、関係する課題を抽出しておきたい。

1 資料情報

(1) 「名所江戸百景」百十九図

(東京都江戸東京博物館所蔵 資料番号八三二〇〇〇一―二一九)

制作…安政二年～六年

作者…歌川広重画(「赤坂桐畑雨中夕けい」は二代広重画)

発行…魚屋栄吉

豎大判錦絵

(2) 「浪花百景」百図(大阪歴史博物館所蔵)

制作…幕末頃

作者…歌川国員画、一養斎芳瀧画、南粋亭芳雪画

発行…石川屋和助

豎中判錦絵

(3) 『江戸名所図会』七卷二十冊

(東京都江戸東京博物館所蔵 資料番号八六二〇〇七〇八―二七)

制作…天保五年～七年

作者…斎藤月岑編、長谷川雪旦画

発行…須原屋茂兵衛ほか

(4) 『絵本江戸土産』十編十冊

(東京都江戸東京博物館所蔵 資料番号八六二二三〇四四―五三)

制作…嘉永三年～慶応三年

作者…松亭金水箸、歌川広重画、歌川広重(二代)画

発行…菊屋幸三郎

※但し、本書では初代広重による初編から七編まで扱う。

(5) 『撰津名所図会』 九卷十二冊

(東京都江戸東京博物館所蔵 資料番号九〇二一〇二六―三七)

制作…寛政八年～十年

作者…秋里籬島編、竹原春朝斎画

発行…柳原喜兵衛ほか

(6) 『浪華の賑ひ』 三編三冊

(東京都江戸東京博物館所蔵 資料番号九四〇〇三六七―六九)

制作…安政二年～五年

作者…暁鐘成編、松川半山画

発行…柳原喜兵衛ほか

2 「名所江戸百景」の目録と順序

「名所江戸百景」には、シリーズの目録【図1】が伝わる。これは梅素亭玄魚による作画で、初代広重の署名が記された百十八図について春夏秋冬に分類を行ったものだ。制作されたのは、安政五年（二八五八）九月に初代広重が没し、百十八図すべてが刊行された同年十月以降、二代広重作画の「赤坂桐畑雨中夕けい」（49 95頁）が刊行される翌年四月までではないかと考えられている。目録の枠内右下に玄魚の印章がある。広重と玄魚は交流が深く、「佃しま住吉の祭」（51 98頁）作中の大幟の文字には玄魚の落款が記されるな

ど、本シリーズの作画からもその親密ぶりがうかがえる。

目録は上部に春の部の色紙形が2つ、その下に夏の部の扇面形、右下に秋の部、左下に冬の部の色紙形が配される。春の部四十二図、夏の部三十図、秋の部二十六図、冬の部二十図の構成からなり、四季の分類は他にない本シリーズの特徴と言えよう。それは刊行順とは全く異なり、広重の意図とは必ずしも一致しないかもしれないが、近い理解者によってなされ、シリーズの魅力を高める功績を果たしたと評価できる。

目録の各色紙は、春と秋、冬の部に関して横に二段に書かれたことが、作品名の一部を略した「同」の記載の順や地域の大まかなまとまりから明らかである。一方、扇面形の夏の部は紛らわしい散らし書のため順序が判然としてこなかった。近年、初摺の全揃いが刊



【図1】

行当時の装幀のまま現存する「岩崎本」と「東洋文庫本」の配列が明らかに、これは他の季節と同様、横に二段に読む並びである^二。以降、目録順という両本の配列が多く採用されている。

東京都江戸東京博物館（以下、「当館」という。）所蔵の「名所江戸百景」は「堀切の花菖蒲」（57 106頁）を除き、初摺りのセットと判断される全図揃いである。各図の縦が三十六・〇センチと同じで、枠外下部の裁切りが大きいことが共通しており、現在はバラバラの状態だが、当初は一冊の画帖であった可能性が高い。但し、後摺りの「堀切の花菖蒲」も含まれることから、セットのうち数図を加減、あるいは入れ替えた可能性もある。本シリーズが収蔵されたのは、当館が開館する約十年前の一九八三年度で最も早い収集品の一つで、開館準備室の学芸員が採用される以前であった^三。そのため惜しまれることに収集時の詳細な記録が残されていない。それでも各図に付与された資料の順番は収集時から現在に至るまで変わっていない。当館の購入の手続きを鑑みると、資料番号はバラバラにされた痕跡を示唆し、元来の画帳の順番が大いに反映されたものではないかと思われる。これはあくまで一つの推測に過ぎないが、現状の館の順序でもあることから、本書では、当館所蔵「名所江戸百景」を全図掲載するにあたり、【表1】のとおり資料番号の順に行った。

春、秋、冬の部は、目録通りの順番で、「岩崎本」「東洋文庫本」とも共通する。夏の部については、他の季節と同様に、目録扇面形の散らし書きの上部右から左へ、その後下部右から左へという横二段の順番である。これも「岩崎本」「東洋文庫本」とも共通する。

但し「両国橋大川ばた」（54 102頁）と「浅草川大川端宮戸川」（69 128頁）が入れ替わって逆である。これについては後述するが、目録の読み違いによる誤りだろう。そして、二代広重の「赤坂桐畑雨中夕けい」は、他所蔵と同様、初代の「赤坂桐畑」（48 94頁）の次にあり、作品の状態から同じ画帖にあったものとうかがえる^四。

3 「浪花百景」の年代、目録と順番

「浪花百景」と「名所江戸百景」で大きく異なる点は、大きさが中判であること、百図揃で完結していること、三人の絵師による分業であることが挙げられよう。そして制作年代を示す「改印」のような記載がなく、制作は「嘉永期」「安政年間」「文久頃」「慶応頃」など複数の説があった。現在は「名所江戸百景」や安政二年から五年の『浪華の賑ひ』の影響を受けて、「文久から慶応あたりまでかり成立した」という説が有力である^五。分業であることや百図揃で見事に完結したという特徴から長期に渡る事業かどうかは検討が必要であろうが、幕末のかなり遅い時期であることは、例えば「天保山」（65 304頁）や「玉江橋景」（60 295頁）からもうかがえる^六。

現在の大阪市港区にあった天保山は、天保二年に安治川の浚渫工事の土砂でできた山で、高灯籠を備え、天保期以降には海辺の行楽地としても賑わいをみせた。芳雪による「天保山」は、海浜の茶屋と人々の姿が描かれるものの、山は削られ灯籠は石の台座のみである。二代広重「諸国名所百景 大坂天保山」【図2】と比べると景観の違いは明らかで、「浪花百景」の方は元治元年に天保山台場の築造開始した以降の姿を示すものと思われる。また、堂島川に架か



【図2】

る玉江橋は、南東の四天王寺の五重塔が望めることで評判であつた。「玉江橋景」にも、その姿が遠景に描かれる。橋の中央には隊列が進み、これは慶応四年に結

成された浪花隊とすでに指摘される^七。隊列の行進を物珍しい様子で仰ぎ見る人々の姿は、結成されたばかりの時期を示すものか^八。本シリーズの少なくとも玉江橋の図様に関しては、制作時期が慶応四年頃まで下ることになる。

大阪歴史博物館所蔵の「浪花百景」は全図が揃い、一枚ずつのまくりの状態で保管されている。目録が二枚(【図3】【図4】)付属し、筆跡から三人の絵師の中心である国員によるのではないか。それぞれ五十図ずつ作品名が並び、【図3】は絵師ごとに色紙形で分かれ、

【図3】

【図4】は、天王寺蕪や真鯛など大坂に縁のある事物に名所が書かれる粋な仕上がりである。目録には前後を示す番号はなく、どちらが先か明確ではないが、ボ



【図4】

ストン美術館ビゲロー・コレクションに所蔵の本シリーズ目録が【図3】【図4】の順に糊付けされる^九。そのほか先行の複製本での掲載順^{一〇}を参考とし、大

阪歴史博物館の所蔵の現行の順番でもあることからその通り採用した。【表2】が本書掲載順でもある同館蔵の「浪花百景」リストである。前半五十図の方が、後半五十図よりも縦の長さが数ミリであるが平均して短い。

4 シリーズの順番に関して

【表1】【表2】には、各目録に書かれた作品タイトルも記した。両シリーズとも、各作品につけられた題名を略したものが多い。両シリーズの目録から、いくつか検討課題を抽出しておきたい。

(1) 名所江戸百景

先述のとおり、当館「名所江戸百景」の並びに関しては、本来「浅草川大川端宮戸川」のところに「両国橋大川ばた」が入っており、これは目録の読み間違いが原因である。目録では、「浅草川大川端宮戸川」を「両国川船中」と、「両国橋大川ばた」を「同大かはた」と表している(【表1】参照)。目録と作品の題名は異なり、こうし

た誤りも発生しやすかっただろう。さらに夏の部は他と異なり扇面の散らし書きが難しい。この目録の「両国川船中」「同大かははた」の記載には、さらに考察すべき点が見出せる。

一つは「両国川船中」という目録の題名の記載である。これは、「浅草川大川端宮戸川」を示すが、浅草川・大川・宮戸川とは、隅田川の場所による名称の違いであった。『江戸名所図会』によれば浅草川は「隅田河の下流にして、旧名を宮戸川と号す」とある。大川については吾妻橋より下流、あるいは両国辺りと呼んだとも言われ、「浅草川大川端宮戸川」はどこを指すものか解釈が悩ましい。作画からは両国辺りの船上より浅草の吾妻橋を望む景色とわかる。



【図5】国会図書館蔵

端午の節句に執り行われた水垢離の情景ともいわれる^二。そのため本図の後摺りでは題名が「両国船中浅草遠景」【図5】へと改められた。この後摺りのタイトルは、玄魚の付けた目録の「両国川船中」ともほぼ一致する。シリーズ中、唯一タイトルが変更されたのが本図で、これは玄魚の地名に関する考えが反映された可能性も考えられよう。

もう一つは、「両国橋大川ばた」を目録上「同大かははた」と表した点である。目録にある「同」は、絵からも両国を示すことは明らかだ。しかし横に二段の読み方に従うと「同大かははた」は「中洲大かははた」となり、作品とは一致しない。縦の散らし書に従えば、「両国川船中」「同（両国）大かははた」とつながる。つまり、

玄魚の意図として目録の夏の部に関しては、横に二段ではなく、縦の散らし書順が正しい可能性もある。しかしその場合、当館や現存の画帖においてもその意図とは異なった順番ということになる^二。

縦の散らし書きを支持するものとして、目録の他の季節において見られる地域の大まかなまとまりもある。例えば、春の部では上野、日暮里、王子、目黒と散発的ではあるがまとまりが見られ、秋の部でも芝から品川へ、冬の部でも深川や高田馬場に連続性がある。【表3】のとおり夏の部を縦の散らし書に並べ替えると、昌平橋から水道橋、佃島から綾瀬川へと隅田川を下流から上流へ、深川八幡山開きから三十三間堂と地域の流れをいくつかつくれる。さらに、広重没後、目録を作るにあたって参考にしたであろう『江戸名所図会』絵本江戸土産』の巻ごとの地域の連続性もある。より詳細な検討を今後も継続していきたい。

（2）浪花百景

「浪花百景」の目録は、二部構成からなり、目録1【図3】が絵師順、目録2【図4】は絵師の別はなく、安治川筋、住吉など地域のまとまりが散発する。百図の内訳は、国員が四十図、芳瀧が三十一図、芳雪が二十九図で、目録1に同十七図、十六図、十七図、目録2に同二十三図、十五図、十二図で、双方とも国員の作画から展開していく。

そして、いずれも「錦城の馬場」（1 210頁）「すじかね御門」（51 286頁）と大坂城が最初の作品で、目録2の方では住吉や北部など郊外が後半に展開する。「名所江戸百景」目録では、春・夏・

秋の部はいずれも日本橋界限から始まっているが、「浪花百景」では政治的象徴からで、両シリーズの起点の考え方の違いがうかがえる。

『撰津名所図会』『浪華の賑ひ』からは図様の借用は行っているものの、「浪花百景」構成への反映は見出せない。この点も「名所江戸百景」の『江戸名所図会』『絵本江戸土産』との関係性とは異なる。

最後に、「浪花百景」にしか見られない特徴として、画帖で開いた際に続き絵となるような仕掛けを挙げておきたい。これは百図の画帖形式での販売を視野に入れていたためであろう。すでに「天満ばし風景」(53 288頁)「あみ島風景」(54 289頁)の連続性は知られるところだ。その他、「しりなし漆つづみ甚兵衛の小家」(45 278頁)「堀川備前陣家」(46 279頁)の全く異なる地点である両作品を見開きで見ると、川の兩岸を見るかのように春と秋の季節が対峙する形となっている。画帖としての完成形が見えていたからこそなし得た作画であろう。

「浪花百景」に関する研究は「名所江戸百景」との関わりも含め、現在まさに進行するところである。当館と大阪歴史博物館との共同による本刊行物がその助けになれば幸いである。

一 菅原真弓「『浪花百景』―作品に見られる歌川広重学習を中心に―」『人文研究 大阪市立大学大学院文学研究科紀要』七十巻、二〇九―一二七頁。同論考には「浪花百景」に関する従来の研究もまとめられている。

二 「広重名所江戸百景 秘蔵岩崎コレクション」(浅野秀剛監修) 小学館、二〇〇七年

三 「江戸東京博物館 建設のあゆみ―建設と開設準備の記録」財団法人東京都歴史文化財団、一九九七年

四 「赤坂桐畑雨中夕けい」には他の図にも散見される漢数字の番号が振られている。この数字の意味するところは不明である。

五 八反裕太郎「上方浮世絵における「浪花百景」の史的特質」『浪花百景 大阪名所案内』関西学院大学博物館開設準備室、二〇一〇年

六 本書、豆谷氏論考もご参照いただきたい。

七 宮本又次「江戸時代の大坂と上方絵にあらわれた大坂の景觀」『浪花百景』立風書房、一九七六年

八 「天保山」「玉江橋景」の幕末の景觀の変容を写し描く姿勢は、「名所江戸百景」の中でも見られる。

九 「浪花名所百景」(浪花百景)目録」ポストン美術館所蔵 同館コレクション番号 11357012 同画像は、オンラインで公開されている。

一〇 前掲、立風書房、一九七六年

一一 「大川筋水垢離」『絵本江戸風俗往来』(東洋文庫五十八十九頁)

一二 但し、目録にない二代広重の「赤坂桐畑雨中夕けい」が同じく画帖に綴じられた時点で、もはや玄魚の目録通りではない。

※【図5】「名所江戸百景 両国船中浅草遠景」(部分) 国立国会図書館蔵

【表1】

順番	資料番号	作品名	制作	寸法（縦×横cm）	目録作品名
1	83200001	日本橋雪晴	安政 3年 5月	36.0×24.5	日本ばし
2	83200002	霞かせき	安政 4年 正月	36.0×24.5	霞が関
3	83200003	山下町日比谷外さくら田	安政 4年 12月	36.0×24.5	山下御門
4	83200004	永代橋佃しま	安政 4年 2月	36.0×24.5	永代白魚船
5	83200005	両ごく回向院元柳橋	安政 4年 閏5月	36.0×24.5	両国ノ相撲
6	83200006	馬喰町初音の馬場	安政 4年 9月	36.0×24.5	初音の馬場
7	83200007	大てんま町木綿店	安政 5年 4月	36.0×24.5	大伝馬町
8	83200008	するかてふ	安政 3年 9月	36.0×24.5	駿河町
9	83200009	筋違内八ツ小路	安政 4年 11月	36.0×24.5	八辻が原
10	83200010	神田明神曙之景	安政 4年 9月	36.0×24.5	神田明神
11	83200011	上野清水堂不忍ノ池	安政 3年 4月	36.0×24.5	上野清水
12	83200012	上野山した	安政 5年 10月	36.0×24.5	同山下
13	83200013	下谷広小路	安政 3年 9月	36.0×24.5	同広小路
14	83200014	日暮里寺院の林泉	安政 4年 2月	36.0×24.5	日暮里
15	83200015	日暮里諏訪の台	安政 3年 5月	36.0×24.5	同諏訪
16	83200016	千駄木団子坂花屋敷	安政 3年 5月	36.0×24.5	千駄木団子坂
17	83200017	飛鳥山北の眺望	安政 3年 5月	36.0×24.5	飛鳥山
18	83200018	王子稲荷の社	安政 4年 9月	36.0×24.5	王子いなり
19	83200019	王子音無川堰榎 世俗大瀧ト唱	安政 4年 2月	36.0×24.5	同大瀧
20	83200020	川口のわたし善光寺	安政 4年 2月	36.0×24.5	川口のわたし
21	83200021	芝愛宕山	安政 4年 8月	36.0×24.4	芝あたご
22	83200022	広尾ふる川	安政 3年 7月	36.0×24.4	ふる川
23	83200023	目黒千代か池	安政 3年 7月	36.0×24.4	千代が崎
24	83200024	目黒新富士	安政 4年 4月	36.0×24.4	目黒新ふじ
25	83200025	目黒元不二	安政 4年 4月	36.0×24.4	同元ふじ
26	83200026	八景坂鎧掛松	安政 3年 5月	36.0×24.4	八景坂
27	83200027	蒲田の梅園	安政 4年 2月	36.0×24.4	蒲田の梅
28	83200028	品川御殿やま	安政 3年 4月	36.0×24.4	御てん山
29	83200029	砂むら元八まん	安政 3年 4月	36.0×24.4	砂むら
30	83200030	亀戸梅屋舗	安政 4年 11月	36.0×24.4	梅やしき
31	83200031	吾孀の森連理の梓	安政 3年 7月	36.0×24.4	吾妻森
32	83200032	柳しま	安政 4年 4月	36.0×24.4	やなぎしま
33	83200033	四ツ木通用水引ふね	安政 4年 2月	36.0×24.0	四ツ木の引舟
34	83200034	真乳山山谷堀夜景	安政 4年 8月	36.0×24.4	墨水夜景
35	83200035	隅田川水神の森真崎	安政 3年 8月	36.0×24.4	水神の杜
36	83200036	真崎辺より水神の森内川関屋の里を見る図	安政 4年 8月	36.0×24.4	真先の辺
37	83200037	墨田河橋場の渡かわら竈	安政 4年 4月	36.0×24.4	今戸の煙
38	83200038	廓中東雲	安政 4年 4月	36.0×24.4	新吉原
39	83200039	吾妻橋金龍山遠望	安政 4年 8月	36.0×24.4	大川ばし
40	83200040	せき口上水端はせを庵椿やま	安政 4年 4月	36.0×24.0	関口水道端

順番	資料番号	作品名	制作	寸法（縦×横cm）	目録作品名
41	83200041	市ヶ谷八幡	安政 5年 10月	36.0×24.5	市谷八幡
42	83200042	玉川堤の花	安政 3年 2月	36.0×24.5	玉川堤
43	83200043	日本橋江戸ばし	安政 4年 12月	36.0×24.5	日本橋
44	83200044	日本橋通一丁目略図	安政 5年 8月	36.0×24.5	おなじく通一丁目
45	83200045	鎧の渡し小網町	安政 4年 10月	36.0×24.5	鎧のわたし
46	83200046	昌平橋聖堂神田川	安政 4年 9月	36.0×24.5	昌平橋
47	83200047	王子不動之瀧	安政 4年 9月	36.0×24.5	王子不動のたき
48	83200048	赤坂桐畑	安政 3年 4月	36.0×24.5	赤坂桐はたけ
49	83200049	赤坂桐畑雨中夕けい	安政 6年 4月	36.0×24.0	—
50	83200050	増上寺塔赤羽根	安政 4年 正月	36.0×24.4	増上寺
51	83200051	佃しま住吉の祭	安政 4年 7月	36.0×24.0	佃住よし
52	83200052	深川万年橋	安政 4年 11月	36.0×24.4	万年はし
53	83200053	大はしあたけの夕立	安政 4年 9月	36.0×24.0	大はしの夕立
54	83200054	両国橋大川ばた	安政 3年 8月	36.0×24.4	同大かははた
55	83200055	浅草川首尾の松御厩河岸	安政 3年 8月	36.0×24.0	首尾の松
56	83200056	駒形堂吾孀橋	安政 4年 正月	36.0×24.4	こまかた堂
57	83200057	堀切の花菖蒲	安政 4年 閏5月	36.0×24.4	ほり切
58	83200058	亀戸天神境内	安政 3年 7月	36.0×24.4	亀戸の藤
59	83200059	逆井のわたし	安政 4年 2月	36.0×24.4	逆井
60	83200060	深川八まん山ひらき	安政 4年 8月	36.0×24.4	深川八まん山開
61	83200061	中川口	安政 4年 2月	36.0×24.4	中川くち
62	83200062	利根川ばらばらまつ	安政 3年 8月	36.0×24.4	とねかわ
63	83200063	ハツ見のはし	安政 3年 8月	36.0×24.4	八つ見のはし
64	83200064	水道橋駿河台	安政 4年 閏5月	36.0×24.4	水道橋
65	83200065	角筈熊野十二社 俗称十二そう	安政 3年 7月	36.0×24.4	十二荘
66	83200066	糺町一丁目山王祭ねり込	安政 3年 7月	36.0×24.4	糺まち
67	83200067	外桜田弁慶堀糺町	安政 3年 5月	36.0×24.4	外さくら田
68	83200068	みつまたわかれの渚	安政 4年 2月	36.0×24.4	中洲
69	83200069	浅草川大川端宮戸川	安政 4年 7月	36.0×24.4	両国川船中
70	83200070	綾瀬川鐘か渚	安政 4年 7月	36.0×24.4	あやせ川
71	83200071	五百羅漢さゝる堂	安政 4年 8月	36.0×24.4	五百羅かん
72	83200072	深川三十三間堂	安政 4年 8月	36.0×24.4	三十三けん堂
73	83200073	はねたのわたし 弁天の社	安政 5年 8月	36.0×24.4	はねた
74	83200074	市中繁栄七夕祭	安政 4年 7月	36.0×24.4	市中の七夕
75	83200075	大伝馬町こふく店	安政 5年 7月	36.0×24.4	大丸屋
76	83200076	神田紺屋町	安政 4年 11月	36.0×24.4	紺屋町
77	83200077	京橋竹がし	安政 4年 12月	36.0×24.4	京ばし
78	83200078	鉄砲洲稲荷橋湊神社	安政 4年 2月	36.0×24.4	鉄砲洲
79	83200079	鉄砲洲築地門跡（江戸百景余興）	安政 5年 7月	36.0×24.4	つきぢ
80	83200080	芝神明増上寺（江戸百景余興）	安政 5年 7月	36.0×24.4	芝明前
81	83200081	金杉橋芝浦	安政 4年 7月	36.0×24.4	金杉橋

順番	資料番号	作品名	制作	寸法（縦×横cm）	目録作品名
82	83200082	高輪うしまち	安政 4年 4月	36.0×24.4	高なは
83	83200083	月の岬	安政 4年 8月	36.0×24.4	月の岬
84	83200084	品川すさき	安政 3年 4月	36.0×24.4	品川洲崎
85	83200085	目黒爺々が茶屋	安政 4年 4月	36.0×24.4	目黒爺や
86	83200086	紀の国坂赤坂溜池遠景	安政 4年 9月	36.0×24.4	紀伊くに坂
87	83200087	四ッ谷内藤新宿	安政 4年 11月	36.0×24.4	内藤新宿
88	83200088	井の頭の池 弁天の社	安政 3年 4月	36.0×24.4	井の頭
89	83200089	王子瀧の川	安政 3年 4月	36.0×24.4	瀧の川
90	83200090	上野山内月のまつ	安政 4年 8月	36.0×24.4	月の松弁才天
91	83200091	猿わか町よるの景	安政 3年 9月	36.0×24.4	猿若街
92	83200092	請地秋葉の境内	安政 4年 8月	36.0×24.4	向嶋秋葉
93	83200093	木母寺内川御前栽畑	安政 4年 12月	36.0×24.4	木母寺
94	83200094	にい宿のわたし	安政 4年 2月	36.0×24.4	にい宿
95	83200095	真間の紅葉 手古那の社継はし	安政 4年 正月	36.0×24.4	真間
96	83200096	鴻の台とね川風景	安政 3年 5月	36.0×24.4	鴻の台
97	83200097	堀江ねこざね	安政 3年 2月	36.0×24.4	堀江猫実
98	83200098	小奈木川五本まつ	安政 3年 7月	36.0×24.4	小名木川の松
99	83200099	両国花火	安政 5年 8月	36.0×24.4	両国の花火
100	83200100	浅草金龍山	安政 3年 7月	36.0×24.4	浅草寺の雪
101	83200101	よし原日本堤	安政 4年 4月	36.0×24.4	日本堤
102	83200102	浅草田甫西の町詣	安政 4年 11月	36.0×24.4	西の市
103	83200103	蓑輪金杉三河しま	安政 4年 閏5月	36.0×24.4	三川しま
104	83200104	千住の大はし	安政 3年 2月	36.0×24.4	千住大橋
105	83200105	小梅堤	安政 4年 2月	36.0×24.5	小梅つゝみ
106	83200106	御厩河岸	安政 4年 12月	36.0×24.5	御厩河岸
107	83200107	深川木場	安政 3年 8月	36.0×24.5	木場
108	83200108	深川洲崎十万坪	安政 4年 閏5月	36.0×24.5	十万坪
109	83200109	芝うらの風景	安政 3年 2月	36.0×24.5	芝浦
110	83200110	南品川鮫洲海岸	安政 4年 2月	36.0×24.5	さめ洲
111	83200111	千束の池 袈裟懸松	安政 3年 2月	36.0×24.5	千束の池
112	83200112	目黒太鼓橋夕日の岡	安政 4年 4月	36.0×24.5	目黒太鼓橋
113	83200113	愛宕下藪小路	安政 4年 12月	36.0×24.5	藪小路
114	83200114	虎の門外あふひ坂	安政 4年 11月	36.0×24.5	とらのもん
115	83200115	びくにはし雪中	安政 5年 10月	36.0×24.5	びく尼はし
116	83200116	高田の馬場	安政 4年 2月	36.0×24.5	高田の馬場
117	83200117	高田姿見のはし 佛の橋砂利場	安政 4年 正月	36.0×24.5	姿見のはし
118	83200118	湯しま天神坂上眺望	安政 3年 4月	36.0×24.5	ゆしま天神
119	83200119	王子装束糸の木 大晦日の狐火	安政 4年 9月	36.0×24.5	王子装束榎

【表2】

順番	作品名	絵師	寸法（縦×横cm）	目録作品名
001	錦城の馬場	歌川国員	24.3×17.9	錦城の馬場
002	今橋つきちの風景	歌川国員	24.3×17.8	今ばし
003	八軒屋夕景	歌川国員	24.3×17.8	八軒家真景
004	さくらの宮景	歌川国員	24.3×17.8	桜の宮
005	堂じま米市	歌川国員	24.2×17.9	堂じま
006	蛸の松夜の景	歌川国員	24.3×17.8	蛸の松夜の月
007	解舟町	歌川国員	24.3×17.8	解舟町雪
008	浪花橋夕涼	歌川国員	24.3×17.8	浪花橋夕涼
009	真言坂	歌川国員	24.3×17.8	高津真言坂
010	天神祭り夕景	歌川国員	24.2×17.8	天神祭大かゞり
011	松のはな	歌川国員	24.2×17.8	松のはな大渡し
012	新町店つき	歌川国員	24.4×17.9	新町店つき
013	生玉絵馬堂	歌川国員	24.3×17.8	生玉絵馬堂
014	源八渡し口	歌川国員	24.4×17.8	源八舟わたし
015	北妙けん堤	歌川国員	24.3×17.9	堀川妙見
016	天満市場	歌川国員	24.3×17.8	天神橋市場
017	住吉高とうろう	歌川国員	24.3×17.8	住よし浜辺
018	高津	一養斎芳瀧	24.3×17.9	高津の社
019	梅やしき	一養斎芳瀧	24.3×17.9	梅やしき
020	佐奈田山三光宮	一養斎芳瀧	24.3×17.9	真田山三光社
021	増井浮瀬夜の雪	一養斎芳瀧	24.2×17.9	浮瀬夜のゆき
022	天満天神地車宮入	一養斎芳瀧	24.3×17.8	天満地車宮入り
023	雑喉場	一養斎芳瀧	24.3×17.9	ざこば魚市
024	四ッ橋	一養斎芳瀧	24.2×17.9	四ッ橋時雨
025	長堀石浜	一養斎芳瀧	24.2×17.9	長堀石はま
026	今宮蛭子宮	一養斎芳瀧	24.3×17.9	今宮十日祓
027	広田社	一養斎芳瀧	24.3×17.9	広田虫のね
028	長堀財木市	一養斎芳瀧	24.3×17.9	長堀材木市
029	森の宮蓮如松	一養斎芳瀧	24.2×17.8	森の宮蓮如松
030	福しま逆櫓松	一養斎芳瀧	24.4×17.9	福嶋逆櫓の松
031	野田藤	一養斎芳瀧	24.3×17.9	野田のふじ
032	茨住吉	一養斎芳瀧	24.4×17.9	茨住よし
033	松屋呉服店	一養斎芳瀧	24.2×17.9	心斎ばし大丸店
034	四天王寺	南粹亭芳雪	24.3×17.9	四天王寺門
035	四天王寺合法辻	南粹亭芳雪	24.3×17.8	合法辻の雪朝
036	河堀口	南粹亭芳雪	24.3×17.9	河堀口
037	生玉弁天池夜景	南粹亭芳雪	24.4×17.9	生玉弁天の蓮池
038	道頓堀太左衛門橋雨中	南粹亭芳雪	24.3×17.9	太左衛門はし夕立
039	十三中道	南粹亭芳雪	24.3×17.9	十三中道
040	木津川口千本松	南粹亭芳雪	24.3×17.9	木津川千本松
041	茶白山	南粹亭芳雪	24.3×17.9	茶白山新月
042	うらえ杜若	南粹亭芳雪	24.3×17.8	浦江かきつばた
043	覚満寺之夕景	南粹亭芳雪	24.3×17.8	鶴万寺景さくら
044	勝曼院愛染堂	南粹亭芳雪	24.4×17.8	勝まんあいせん
045	しりなし漆づつみ甚兵衛の小家	南粹亭芳雪	24.2×17.6	尻なし甚兵衛小家
046	堀川備前陣家	南粹亭芳雪	24.3×17.8	堀川御陣家
047	安居天神社	南粹亭芳雪	24.3×17.7	安居天神
048	広田星カ池稲荷	南粹亭芳雪	24.4×17.8	今宮星が池
049	新清水紅葉坂瀧	南粹亭芳雪	24.3×17.8	新清水瀧
050	産湯味原池	南粹亭芳雪	24.4×17.8	産湯味原池

順番	作品名	絵師	寸法（縦×横cm）	目録作品名
051	筋鐘御門	歌川国員	24.6×17.9	すじかね御門
052	三大橋	歌川国員	24.6×17.6	三大橋
053	天満ばし風景	歌川国員	24.6×17.9	天満橋
054	あみ嶋風景	歌川国員	24.6×17.7	同網嶋遠景
055	川崎御宮	歌川国員	24.6×17.9	建国寺御宮
056	三井呉服店	歌川国員	24.6×17.5	こうらい橋三井
057	浜村鬼子母神	歌川国員	24.5×17.9	浜村鬼子母神
058	北瓢亭	歌川国員	24.6×17.8	北新地瓢亭
059	宗禅寺場々	歌川国員	24.6×18.0	崇禅寺馬場
060	玉江橋景	歌川国員	24.6×17.7	玉江橋天王寺遠景
061	戎嶋天満宮御旅所	歌川国員	24.6×17.7	天神御旅
062	川口雑喉場つきじ	一養斎芳瀧	24.6×17.7	崎吉橋
063	安治川ばし	歌川国員	24.5×17.8	安治川ばし
064	下安治川随見山	南粋亭芳雪	24.6×17.9	下安治川
065	天保山	南粋亭芳雪	24.6×17.9	天保山
066	新町廓中九軒夜桜	一養斎芳瀧	24.6×17.8	新町九軒花盛
067	あみだ池	一養斎芳瀧	24.5×17.8	あみだ池和光寺
068	永代浜	一養斎芳瀧	24.6×17.8	永代はま
069	北之大融寺	歌川国員	24.5×17.3	太ゆふじ
070	両本願寺	歌川国員	24.5×17.9	両本願寺
071	大江ばしより鍋しま風景	歌川国員	24.5×17.9	鍋嶋風景
072	二軒茶や風景	歌川国員	24.5×17.9	二軒茶や
073	道頓堀角芝居	歌川国員	24.5×17.8	道頓堀
074	長町裏遠見難波蔵	一養斎芳瀧	24.6×17.8	長町うら御蔵遠景
075	吉助牡丹盛り	南粋亭芳雪	24.5×17.5	吉助ぼたん
076	鉄眼寺夕景	南粋亭芳雪	24.6×17.9	難波鉄眼寺
077	天王寺増井	一養斎芳瀧	24.5×17.7	清水増井
078	寿法寺	一養斎芳瀧	24.6×17.7	寿法寺
079	舍利寺	一養斎芳瀧	24.5×17.8	舍利寺
080	御勝山	南粋亭芳雪	24.5×17.9	御勝山
081	茶白山雲水	南粋亭芳雪	24.6×17.8	雲水
082	四天王寺伽藍	歌川国員	24.5×17.5	四天王寺伽藍
083	天下茶やぜさい	一養斎芳瀧	24.6×17.4	天下茶屋
084	住吉岸姫松	一養斎芳瀧	24.6×17.5	岸の姫松
085	住よし五大力	一養斎芳瀧	24.5×17.4	五大力
086	浅沢の弁才天	一養斎芳瀧	24.5×17.7	浅沢弁天
087	住吉反橋	一養斎芳瀧	24.6×17.8	反はし
088	住吉本社	歌川国員	24.5×17.8	住吉社内
089	住よし大和橋	一養斎芳瀧	24.6×17.7	大和はし
090	京橋	南粋亭芳雪	24.6×17.9	京橋
091	川崎ノ渡シ月見景	南粋亭芳雪	24.5×17.7	川崎渡し
092	天満樋の口	南粋亭芳雪	24.4×17.9	樋の口
093	毛馬	南粋亭芳雪	24.6×17.6	毛馬渡し
094	長柄三頭	歌川国員	24.6×17.9	長柄三ツ股
095	柴島晒堤	歌川国員	24.6×17.9	さらし堤
096	江口君堂	歌川国員	24.6×17.8	江口
097	佐太村天満宮	南粋亭芳雪	24.6×17.7	佐田天神
098	三嶋江	歌川国員	24.5×17.9	みしまへ
099	西照庵月見景	南粋亭芳雪	24.5×17.4	西照庵
100	野中観音桃華盛り	一養斎芳瀧	24.5×17.7	野中桃のはなざかり

【表3】

作品名（散らし書き順）	目録作品名	絵の内容 祭礼等	『江戸名所図会』	『絵本江戸土産』
日本橋江戸ばし	日本橋	初鰹	1巻1冊・2冊	5編
日本橋通一丁目略図	おなじく通一丁目		1巻1冊	
ハツ見のはし	八つ見のはし		1巻1冊	1編
鎧の渡し 小網町	鎧のわたし		1巻2冊	6編
昌平橋聖堂神田川	昌平橋		1巻1冊・5巻14冊	5編
水道橋駿河台	水道橋	端午の節句 5月5日	1巻1冊	5編
王子不動之瀧	王子不動のたき		5巻15冊	4編
角筈熊野十二社 俗称十二そう	十二荘		4巻11冊	3編
糺町一丁目山王祭ねり込	糺まち	山王祭礼 6月15日		
赤坂桐畑	赤坂桐はたけ			3編
(赤坂桐畑雨中夕けい)	—			
増上寺塔赤羽根	増上寺		1巻3冊	
外桜田弁慶堀糺町	外さくら田			3編
佃しま住吉の祭	佃住よし	住吉祭礼 6月28日	1巻2冊	
深川万年橋	万年はし			
みつまたわかれの渚	中洲		1巻2冊	2編
大はしあたけの夕立	大はしの夕立		1巻2冊	2編
浅草川大川端宮戸川	両国川船中	5月5日（大山水垢離ならば 6月26日）	1巻1冊・6巻16冊	1編
両国橋大川ばた	同大かははた		1巻1冊	1編
浅草川首尾の松御厩河岸	首尾の松			7編
駒形堂吾嬬橋	こまかた堂		6巻16冊	1編
綾瀬川鐘か渚	あやせ川		7巻19冊	
堀切の花菖蒲	ほり切			7編
亀戸天神境内	亀戸の藤		7巻18冊	1編
五百羅漢さゝる堂	五百羅かん		7巻18冊	1編
逆井のわたし	逆井			1編
深川八まん山ひらき	深川八まん山開	山開き 3月21日（6月1日）	7巻18冊	2編
深川三十三間堂	三十三けん堂		7巻18冊	2編
中川口	中川くち		7巻19冊	1編
利根川ばらばらまつ	とねかわ			1編
はねたのわたし 弁天の社	はねた		2巻4冊	3編

正誤表

小山周子「名所江戸百景」と「浪花百景」―作品目録と順番に関して『東京都江戸東京博物館調査報告書 第34集（名所江戸百景と浪花百景）』（二〇二〇年三月刊行）

ページ	行数	誤	正
1 頁	下段3行目	安政二年	安政三年